

大学の世界展開力強化事業 構想概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

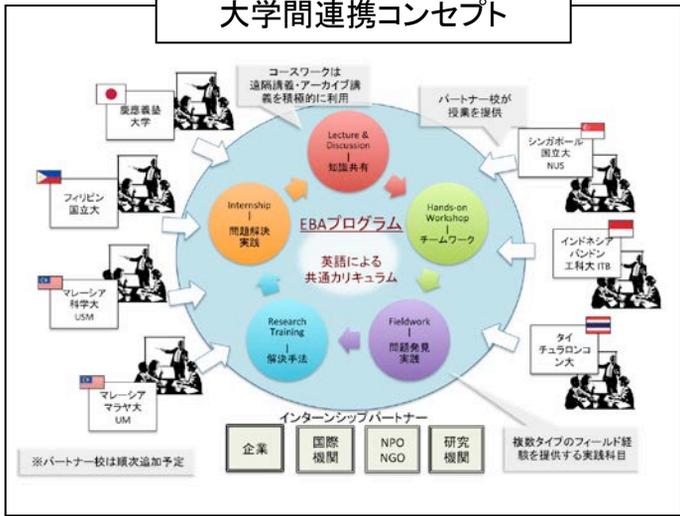
【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN、7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

Evidence Based Approach 大学間連携コンセプト



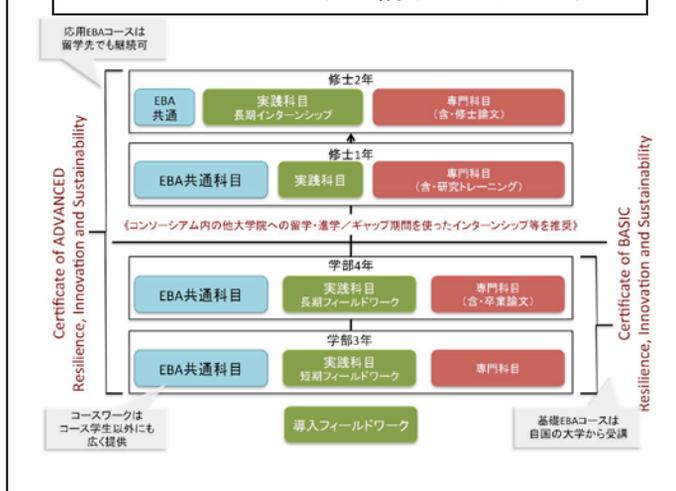
コンソーシアムの形成と大学間連携(左図)

- コンソーシアム参加大学は、実践力養成を重視したEBAコースを共同で構築し、それぞれの大学がその強みを生かした授業を相互に提供。
- ASEAN諸国の学生と日本の学生が、サイバーおよびフィジカルに、共に学ぶ環境を提供。特に、サイバー上のインタラクティブ講義配信ならびに研究指導と相互訪問を組み合わせるこの事業のアプローチ自体が、ASEANの広い地域にわたる課題に共同作業により取り組む方法の実技演習的な性格を有す。
- 専門分野に関連した研究機関、国際機関、NPO/NGO、企業など、多様な形態のインターンシップ受入先をコンソーシアムパートナーとして組織化し、適切な組織における幅広い問題解決現場を提供。

学部・修士一貫コース(右図)

- 前半を学部向け基礎EBAコース、後半を修士課程向け応用EBAコースとして設計。基礎EBAコース修了で、“BASIC”、基礎+応用EBAコース修了で“ADVANCED”の2種類のサティフィケートを付与。
- 修士への進学時に、コンソーシアム内の他大学院への留学・進学やギャップを利用したインターンシップへの参加を推奨。(※コストは本プログラムでは支援対象外)
- 応用EBAコースで実施する長期インターンシップによって、修了後のキャリアパス設計を支援。
- 「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」に関する専門知識構築のための専門科目群とResilience, Innovation and Sustainabilityを重視した解決能力育成のための共通科目、およびフィールドの理解を醸成し、現地活動を行う実践力養成のための実践科目群より構成。ASEAN諸国の言語を含む文化教育も重視。

EBAコース プログラム構成とカリキュラム



多様な派遣プログラム(左図)

- 導入教育短期研修プログラム(学部2~3年)
- 基礎EBAコース(1): 短期フィールドワーク(学部3年次・長期休校期間利用)
- 基礎EBAコース(2): 長期フィールドワーク(学部4年次・長期休校期間利用)
- 応用EBAコース: 長期インターンシップ(修士1~2年次に実施)
- 専門派遣: 実践科目支援のための派遣プログラム(後期博士課程学生)
- 留学: 基礎・応用EBAコース修了後パートナー校へ留学を推奨。(ギャップタームの各自の活用も推奨)

	A	B	C	F	D	E
学部2年						
学部3年						
学部4年						
修士1年						
修士2年						
博士課程						

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	15	40	50	55	60
学生の受入	15	30	45	55	55

注) 申請時の計画

大学の世界展開力強化事業 構想概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅰ))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

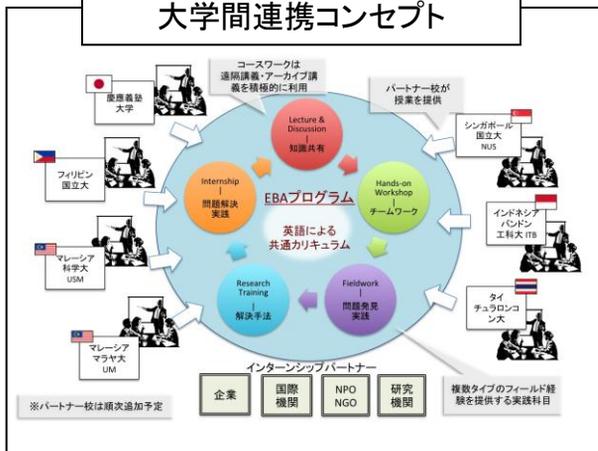
【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN、7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

Evidence Based Approach 大学間連携コンセプト



コンソーシアムの形成と大学間連携(左図)

- コンソーシアム参加大学は、実践力養成を重視したEBAコースを共同で構築し、それぞれの大学がその強みを生かした授業を相互に提供。
- ASEAN諸国の学生と日本の学生が、サイバーおよびフィジカルに、共に学ぶ環境を提供。特に、サイバー上のインタラクティブ講義配信ならびに研究指導と相互訪問を組み合わせるこの事業のアプローチ自体が、ASEANの広い地域にわたる課題に共同作業により取り組む方法の実技演習的な性格を有す。
- 専門分野に関連した研究機関、国際機関、NPO/NGO、企業など、多様な形態のインターンシップ受入先をコンソーシアムパートナーとして組織化し、適切な組織における幅広い問題解決現場を提供。

平成24年度の成果:

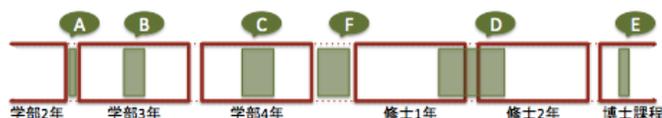
- 第1回パートナー大学全体会議を実施(6大学17名参加)
- パートナー大学代表者によるカリキュラム委員会/コーディネーション委員会/運営委員会を発足させコンソーシアムの設立に合意

学部・修士一貫コース(右図)

- 前半を学部向け基礎EBAコース、後半を修士課程向け応用EBAコースとして設計。基礎EBAコース修了で、“BASIC”、基礎+応用EBAコース修了で“ADVANCED”の2種類のサティフィケートを付与。
- 修士への進学時に、コンソーシアム内の他大学院への留学・進学やギャップを利用したインターンシップへの参加を推奨。(※本プログラムでは支援対象外)
- 応用EBAコースで実施する長期インターンシップによって、修了後のキャリアパス設計を支援。
- 「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」に関する専門知識構築のための専門科目群とResilience, Innovation and Sustainabilityを重視した解決能力育成のための共通科目、およびフィールドの理解を醸成し、現地活動を行う実践力養成のための実践科目群より構成。ASEAN諸国の言語を含む文化教育も重視。

平成24年度の成果:

- EBA共通科目実施に向け遠隔講義環境の構築
- ヤマハ(株)とインターンシップパイロットプログラム実施

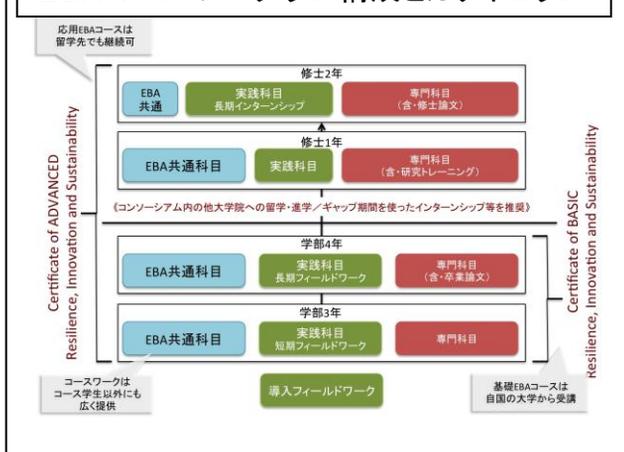


第1回パートナー大学全体会議



インターンシップパイロットプログラム
ヤマハ(株)へ2名派遣

EBAコース プログラム構成とカリキュラム



多様な派遣プログラム(左図)

- 導入教育短期研修プログラム(学部2~3年)
- 基礎EBAコース(1):短期フィールドワーク(学部3年次)
- 基礎EBAコース(2):長期フィールドワーク(学部4年次)
- 応用EBAコース:長期インターンシップ(修士1~2年次に実施)
- 専門派遣:実践科目支援のための派遣プログラム(後期博士課程学生)
- 留学:基礎・応用EBAコース修了後パートナー校へ留学を推奨。(ギャップタームの各自の活用も推奨)

平成24年度の成果と今後の計画:

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	40	50	55	60
学生の受入	4	30	45	55	55

24年度 派遣:インドネシア/カンボジア 受入:インドネシア/マレーシア

大学の世界展開力強化事業 取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

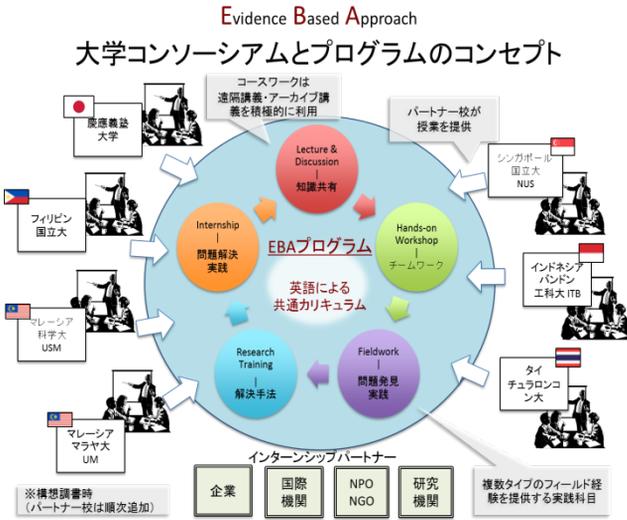
アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。



コンソーシアムの形成と大学間連携(左図)

-コンソーシアム参加大学は、実践力養成を重視したEBAコースを共同で構築し、それぞれの大学がその強みを生かした授業を相互に提供。

-ASEAN諸国の学生と日本の学生が、サイバーおよびフィジカルに、共に学ぶ環境を提供。特に、サイバー上のインタラクティブ講義配信ならびに研究指導と相互訪問を組み合わせるこの事業のアプローチ自体が、ASEANの広い地域にわたる課題に共同作業により取り組む方法の実技演習的な性格を有す。

-専門分野に関連した研究機関、国際機関、NPO/NGO、企業など、多様な形態のインターンシップ受入先をコンソーシアムパートナーとして組織化し、適切な組織における幅広い問題解決現場を提供。

平成25年度の成果(左図)

- 第2回パートナー大学全体会議を実施(ASEANより6大学6名参加)
- 外部評価委員会の発足
- 本学からコンソーシアム参加大学への授業配信開始
- フィールドワーク/インターンシップの派遣・受入実施
- インターン受入予定企業への広報および公式Facebookページ・公式Twitterでの情報発信開始
- コーディネーション会議、オープンセミナーの月例開催
- 学内における遠隔システムおよび授業環境の整備
- コンソーシアム参加大学との協定締結による連携強化
- 学内での学生受入に関わる制度新設(協定学生)
- 産学連携研究コンソーシアムの発足



第2回パートナー大学全体会議



オープンセミナー

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・カンボジア工科大学へのインターンシップ(5月、2名:メディアデザイン研究科)
- ・ガジャマダ大学へのフィールドワーク(8月、5名:理工学研究科)
- ・水俣フィールドワーク(8月、9名:総合政策学部4名、環境情報学部2名、政策・メディア研究科3名) ※下記の派遣学生数には含めず
- ・マンダレーコンピュータ大学へのインターンシップ(10月、3名:メディアデザイン研究科2名、政策・メディア研究科1名)
- ・カンボジア工科大学へのフィールドワーク(3月、3名:理工学研究科)
- ・インドネシアへのフィールドワーク(3月、1名:政策・メディア研究科)

○ 外国人留学生の受入れ

- ・水俣フィールドワーク(8月、14名:バンドン工科大学2名、フィリピン大学2名、マラヤ大学4名、マレーシア科学大学2名、ハノイ工科大学2名、チュロンコン大学2名)
- ・ウェザーニューズ社へのインターンシップ(1~2月、3名:ブラビジャヤ大学)
- ・SFC及びYAMAHAへのインターンシップ(2~5月、2名:マレーシア科学大学1名、ブラビジャヤ大学1名)



水俣フィールドワーク(左図)

コンソーシアム参加大学から12名、本学から9名が参加し、熊本県水俣市で今後の環境保全や経済再生について、共に学習を行った

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	14	56	61	66
学生の受入	4	19	51	61	61

注) H24・H25は実績、H26以降は計画

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- EBAプログラムのデザイン

パートナー大学との協同作業により、「コアコース」、「プラクティカルコース」「スペシャライズドコース」の科目や、単位数等を議論し、プログラム修了に必要なる要求事項等カリキュラムの大枠について議論をおこない、2月に実施したパートナー大学全体会議で合意した。

EBA Core Courses	Practical Courses	Specialized Courses
<ul style="list-style-type: none"> Knowledge Skills Governance Social Innovation Advanced IT 	<ul style="list-style-type: none"> Internship Fieldwork (short- and long-terms) Supporting Subjects Language, Culture of ASEAN and Japan 	<ul style="list-style-type: none"> Energy and Environment Health Environment Disaster and Security

- 各種ガイドラインによるアクティビティのパッケージ化

各大学がホストとなって実施するフィールドワークやインターンシップ等のアクティビティの品質向上のため、授業時間、EBAの目指すデータサイエンスのアプローチ、現地語でのコミュニケーション能力等、事前や事後ワークショップも含めたガイドラインを策定しパッケージ化した。事前事後のワークショップのコンテンツを定めるだけでなく、国や大学毎に異なる学事日程なども踏まえたスケジューリング等ロジスティクス面フィールドワークの企画運営に用いることで、各大学が主体となって取り組みを行っている。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

- オープンセミナーとコーディネーター会議の実施

月例でおこなわれるオープンセミナーにおいて、ASEAN地域に分散する大学の教員とEBAプログラム参加学生間で情報共有と議論を続けている。

コーディネーター会議では、フィールドワークやインターンシッププログラム等全大学が共有する科目の計画や今後の事業推進に関する意思決定を行っている。

- EBAコンポーネントサーティフィケートの発行

EBAプログラム関連科目を履修した受講者のうち、授業担当者が一定基準を満たしたと判断した受講者にEBAコンポーネントサーティフィケートを発行した。H26年度は124人に192通を発行した。所定のコンポーネントサーティフィケート取得した者は、次年度以降EBAプログラムサーティフィケートを取得し修了できる。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- フィールドワークインターンシッププログラムの実施

本事業では学生のモビリティを、10日間程度で実施されるフィールドワークプログラムや、数ヶ月単位で実施するインターンシッププログラムにより実現している。また事前と事後のワークショップにより、現地語コミュニケーション能力やEBAアプローチを学び効果を高めている。

- 日本人学生の派遣

平成26年度は、日本人学生を派遣する環境分野のフィールドワークをフィリピンで実施した。慶應義塾大学とフィリピン大学の共催という形で開催し、次年度以降、各パートナー大学と同様のフィールドワークを定期的に開催する。また日本人学生のASEAN地域でのインターンシップも検討中である。

- 外国人留学生の受入れ

平成26年度は、防災・セキュリティ(三陸)・健康・環境(水俣)・環境・エネルギー(富士吉田)の各分野のフィールドワークと日本企業へのインターンシップを通じて合計42名の学生をパートナー大学より受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	14	4	65	70
学生の受入	4	19	42	65	65

注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 協定学生制度

学期や年度単位ではなく、フィールドワーク等の短期間の訪問を可能にする制度を慶應義塾大学内に制定した。これによりビザ発給時の身分などが明らかとなりスムーズな手続きが可能となった。

- 学内説明会の拡充

パートナー大学と共同でおこなうオープンセミナーだけでなく、学内におけるプログラムの認知度を向上と派遣学生数の増加のため、各キャンパスでのEBA説明会やフィールドワークの説明会を開催し本事業に関する情報発信を行っている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

- 協定学生制度の学内への波及

本事業により制定された協定学生制度は、慶應義塾大学において他の国際連携事業においても活用されており、H27年6月末現在で61人の受入れ実績があった。

- Webを通じた情報発信

オフィシャルページ(<http://www.eba-consortium.asia/>)、Facebookページ(<https://www.facebook.com/EBAConsortium>)を通じ、プログラムの内容や募集情報だけでなく実施中のフィールドワークの様子などを情報発信と共有に努めている。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(1)))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainabilityを考慮して解決できる専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に専門教育とアプローチの実践力を学部からテーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共通カリキュラム(EBAプログラム)の参画大学内における展開

H26年度までに参画大学間で骨格について合意形成された共通カリキュラムを実行するため、慶應義塾大学の設置科目の一部がEBAプログラムに対応した。これにより、EBAのプログラムサティフィケート取得に必要な科目群は、コンソーシアム参加大学が質を保証する正規科目となった。e-科目等履修生制度と組み合わせることにより、単位取得を伴う形で、パートナー大学の学生も授業やフィールドワークに参加可能となっており、本学における体制は完成されつつある。他の参画大学においても同様の対応の検討が始まっている。

○ EBA e-portfolio

EBAプログラムでは、サティフィケートの取得要件を満たした学生に電子的なサティフィケートを発行する。学生はインターネット上でいつでも自身の学習履歴を参照できるようになり、また、学生のサティフィケート取得状況が可視化されることで、パートナー大学のコーディネーターも各大学からのEBAへの参加学生がどのような学習をしているかを把握できるようになった。こうした情報を基に、月例のコーディネーター会議においてプログラムの方向性について議論をおこなっている。



Certificates - Course List

Category	Course Name	University	Course Code	Credits	Start Date	End Date
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-05-05	20	2024-05-05	2024-05-05
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-07-14	20	2024-07-14	2024-07-14
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-08-27	20	2024-08-27	2024-08-27
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-09-11	20	2024-09-11	2024-09-11
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-10-25	20	2024-10-25	2024-10-25
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-11-08	20	2024-11-08	2024-11-08
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2024-12-22	20	2024-12-22	2024-12-22
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-01-05	20	2025-01-05	2025-01-05
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-01-19	20	2025-01-19	2025-01-19
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-02-02	20	2025-02-02	2025-02-02
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-02-16	20	2025-02-16	2025-02-16
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-02-29	20	2025-02-29	2025-02-29
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-03-13	20	2025-03-13	2025-03-13
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-03-27	20	2025-03-27	2025-03-27
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-04-10	20	2025-04-10	2025-04-10
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-04-24	20	2025-04-24	2025-04-24
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-05-08	20	2025-05-08	2025-05-08
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-05-22	20	2025-05-22	2025-05-22
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-06-05	20	2025-06-05	2025-06-05
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-06-19	20	2025-06-19	2025-06-19
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-07-03	20	2025-07-03	2025-07-03
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-07-17	20	2025-07-17	2025-07-17
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-07-31	20	2025-07-31	2025-07-31
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-08-14	20	2025-08-14	2025-08-14
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-08-28	20	2025-08-28	2025-08-28
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-09-11	20	2025-09-11	2025-09-11
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-09-25	20	2025-09-25	2025-09-25
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-10-09	20	2025-10-09	2025-10-09
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-10-23	20	2025-10-23	2025-10-23
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-11-06	20	2025-11-06	2025-11-06
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-11-20	20	2025-11-20	2025-11-20
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-12-04	20	2025-12-04	2025-12-04
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2025-12-18	20	2025-12-18	2025-12-18
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-01-01	20	2026-01-01	2026-01-01
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-01-15	20	2026-01-15	2026-01-15
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-01-29	20	2026-01-29	2026-01-29
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-02-12	20	2026-02-12	2026-02-12
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-02-26	20	2026-02-26	2026-02-26
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-03-12	20	2026-03-12	2026-03-12
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-03-26	20	2026-03-26	2026-03-26
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-04-09	20	2026-04-09	2026-04-09
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-04-23	20	2026-04-23	2026-04-23
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-05-07	20	2026-05-07	2026-05-07
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-05-21	20	2026-05-21	2026-05-21
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-06-04	20	2026-06-04	2026-06-04
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-06-18	20	2026-06-18	2026-06-18
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-07-02	20	2026-07-02	2026-07-02
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-07-16	20	2026-07-16	2026-07-16
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-07-30	20	2026-07-30	2026-07-30
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-08-13	20	2026-08-13	2026-08-13
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-08-27	20	2026-08-27	2026-08-27
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-09-10	20	2026-09-10	2026-09-10
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-09-24	20	2026-09-24	2026-09-24
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-10-08	20	2026-10-08	2026-10-08
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-10-22	20	2026-10-22	2026-10-22
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-11-05	20	2026-11-05	2026-11-05
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-11-19	20	2026-11-19	2026-11-19
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-12-03	20	2026-12-03	2026-12-03
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2026-12-17	20	2026-12-17	2026-12-17
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-01-04	20	2027-01-04	2027-01-04
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-01-18	20	2027-01-18	2027-01-18
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-02-01	20	2027-02-01	2027-02-01
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-02-15	20	2027-02-15	2027-02-15
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-02-29	20	2027-02-29	2027-02-29
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-03-13	20	2027-03-13	2027-03-13
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-03-27	20	2027-03-27	2027-03-27
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-04-10	20	2027-04-10	2027-04-10
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-04-24	20	2027-04-24	2027-04-24
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-05-08	20	2027-05-08	2027-05-08
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-05-22	20	2027-05-22	2027-05-22
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-06-05	20	2027-06-05	2027-06-05
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-06-19	20	2027-06-19	2027-06-19
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-07-03	20	2027-07-03	2027-07-03
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-07-17	20	2027-07-17	2027-07-17
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-07-31	20	2027-07-31	2027-07-31
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-08-14	20	2027-08-14	2027-08-14
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-08-28	20	2027-08-28	2027-08-28
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-09-11	20	2027-09-11	2027-09-11
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-09-25	20	2027-09-25	2027-09-25
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-10-09	20	2027-10-09	2027-10-09
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-10-23	20	2027-10-23	2027-10-23
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-11-06	20	2027-11-06	2027-11-06
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-11-20	20	2027-11-20	2027-11-20
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-12-04	20	2027-12-04	2027-12-04
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2027-12-18	20	2027-12-18	2027-12-18
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-01-01	20	2028-01-01	2028-01-01
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-01-15	20	2028-01-15	2028-01-15
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-01-29	20	2028-01-29	2028-01-29
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-02-12	20	2028-02-12	2028-02-12
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-02-26	20	2028-02-26	2028-02-26
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-03-12	20	2028-03-12	2028-03-12
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-03-26	20	2028-03-26	2028-03-26
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-04-09	20	2028-04-09	2028-04-09
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-04-23	20	2028-04-23	2028-04-23
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-05-07	20	2028-05-07	2028-05-07
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-05-21	20	2028-05-21	2028-05-21
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-06-04	20	2028-06-04	2028-06-04
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-06-18	20	2028-06-18	2028-06-18
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-07-02	20	2028-07-02	2028-07-02
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-07-16	20	2028-07-16	2028-07-16
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-07-30	20	2028-07-30	2028-07-30
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-08-13	20	2028-08-13	2028-08-13
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-08-27	20	2028-08-27	2028-08-27
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-09-10	20	2028-09-10	2028-09-10
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-09-24	20	2028-09-24	2028-09-24
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-10-08	20	2028-10-08	2028-10-08
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-10-22	20	2028-10-22	2028-10-22
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-11-05	20	2028-11-05	2028-11-05
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-11-19	20	2028-11-19	2028-11-19
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-12-03	20	2028-12-03	2028-12-03
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2028-12-17	20	2028-12-17	2028-12-17
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-01-04	20	2029-01-04	2029-01-04
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-01-18	20	2029-01-18	2029-01-18
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-02-01	20	2029-02-01	2029-02-01
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-02-15	20	2029-02-15	2029-02-15
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-02-29	20	2029-02-29	2029-02-29
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-03-13	20	2029-03-13	2029-03-13
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-03-27	20	2029-03-27	2029-03-27
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-04-10	20	2029-04-10	2029-04-10
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-04-24	20	2029-04-24	2029-04-24
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-05-08	20	2029-05-08	2029-05-08
CO	CO-Writing (2024)	YNU	2029-05-22	20	2029-05-22	2029-05-22

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースアプローチ大学コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の3分野において、日本とASEANが協力しながら、諸問題を解決できる人材の育成を目指す。具体的には、課題先進国日本での知見を活かしつつ、“Resilience, Innovation and Sustainability”に考慮しながら問題を解決できる専門的なグローバル人材、“ASEAN EBA リーダー”の育成を図る。

【構想の概要】

本構想で掲げる「エビデンスベースアプローチ(以下、EBA)」とは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、ビッグデータを活用し、データに基づいた事実の分析およびその分析に基づいた正しい解決アプローチの考案を行うとともに、それを実践する手法・考え方である。本構想では、日本とASEANの計7大学でコンソーシアムを形成し、「EBA」を軸に据えた共同教育プログラム「EBAコース」を開発するとともに、参加大学の学生が学部課程から専門知識と実践力を学びあう環境を作る。また、5年間で延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ EBA 大学コンソーシアムの実現と継続

本プログラムでは、ASEAN地域のパートナー大学との対等な関係によるEBA大学コンソーシアムを運営し、EBAカリキュラムの策定やサーティフィケートの発行を実施してきた。本年度のコンソーシアム会議において、本事業の終了後も継続してコンソーシアムを運営する事で合意した。

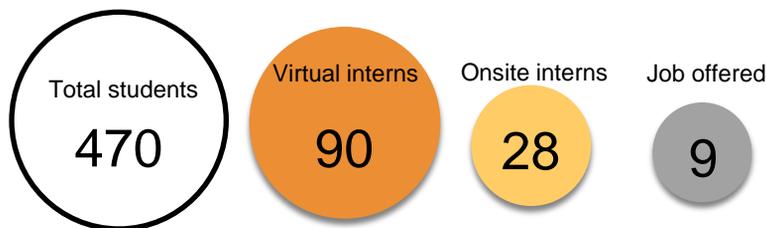
○ コンソーシアムによるサーティフィケートの発行

フィールドワーク等の科目修了時には、修了要件を満たした学生に対してコンソーシアムがコンポーネントサーティフィケートを発行する。サーティフィケートには学習内容が明記され、取得者が持つスキルや知識の可視化を実現している。また、慶應義塾大学主催のフィールドワークや日本語授業では、単位認定を行っている。さらに、カリキュラムが定める所定のコンポーネントサーティフィケート取得により、EBAプログラム修了を示すプログラムサーティフィケートが発行されている。



〈図1.サーティフィケートの学習内容可視化〉

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



〈図2.インターンシップの全体像〉

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 慶應義塾大学生の派遣

H28年度は、当初の予定を大幅に超える89名の学生をパートナー大学が実施するフィールドワークに派遣した。全パートナー大学において、要件に見合うフィールドワークが提供可能となり、安定した学生派遣を実施できる環境が整ってきている。

○ 外国人留学生の受入れ

H28年度は、予定数を超える67名の学生を、水俣、鶴岡、富士吉田、三陸で実施したフィールドワークに受け入れた。これらのフィールドワークには、慶應義塾大学の学生も参加し、ホストとして留学生の世話役や案内役を務めるなど、ASEAN学生との交流を図っている。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	14	4	67	89
学生の受入	4	19	42	77	67

(表 学生交流数)

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ フィールドワークガイドラインの整備

EBAコンソーシアムの実践科目として、一貫した価値を持った質の高いフィールドワークを各パートナー大学が提供できるよう、フィールドワーク実施のガイドラインを整備した。フィールドワーク実施にあたっては、実施の半年ほど前から、各大学のフィールドワーク担当者とガイドラインをベースに調整を行うことで、以前よりも各プログラムの実施アナウンスなどが早期に可能となり、学生の利便性も向上した。

○ 学事日程の調整

パートナー大学間で学事日程が異なるため、各大学の学生が比較的参加しやすい、8月および2、3月の2つの時期に集中的にフィールドワーク等を計画し、学生交流が実現するように調整を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ Open Research Forum におけるセッションの開催

本事業における5年間の成果公表を目的として、2016年11月に開催されたSFC Open Research Forumでセッションを開催し、現在日本企業に就業するインターンシップ参加者や、彼らを採用した企業関係者等の意見も交えつつ、議論を展開した。



〈図3.SFC Open Research Forum 2016でのセッション〉